

「ブロップ・ステーション」の「ブロップ」とは「支え合い」を意味する言葉。「ブロップの設立メンバーに、ラグビー中の事故で、体の自由を失った男性がいます。「ラグビーやってたときの自分の誇りあるポジションがブロップやねん」という彼による命名です」(竹中さん)



20年にわたり障害者の就労支援を続けてきた竹中ナミさん。パソコンセミナーや一流パティシエを招いた菓子作りのセミナーを主催し、障害者がスキルを身につけ、社会的に自立していく仕組みを模索してきた。彼女を突き動かす原動力とは何か。

Case 2

“チャレンジド”が 納税者となる 日本をつくりたい

私は「障害者」ではなく、「チャレンジド」という呼び方を使っています。これは「神から挑戦する使命やチャンスを与えられた人々」という意味の、アメリカ生まれの言葉なんです。

「お金は公平なんやね」

私は重症心身障害を持つ娘を授かったことをきっかけに、多くのチャレンジドに出会い、一緒に活動するなかで、「障害があっても、自分で稼いでみたい」「自分の能力を発揮して認められたい」と思っている人がたくさんいることを知りました。

そこで91年、私は「ブロップ・ステーション」を立ち上げ、チャレンジドの就労支援を始めたんです。彼らの願いをかなえるツールとして注目したのがパソコン。パソコンを使えば、在宅で仕事ができます。当時はパソコンが1台百万円するような時代でしたが、アップル、マイクロソフト、NECと、私たちの考えに賛同

してくださった企業から提供を受け、セミナーの講師を派遣してもらうこともできました。

重度の脳性まひのチャレンジドが、パソコンを使ったイラストで、プロとして初めてお金をもらったときのことです。彼が「お金っていうのはこんなに公平やったんやね、ナミねえ」と言ったんです。私はその言葉を一生忘れることができません。

弱者を弱者でなくしていく

ブロップでは、「チャレンジドを納税者にできる日本」というスローガンを掲げています。日本では「弱者」のために、「弱者ではない人」が何かをしてあげることが福祉だと言われます。でも、本当の福祉とは「弱者を弱者でなくしていくプロセス」なんだと思うんです。

「障害がある人間から税金取るつもりなんか？ 何ぬかしとんねん」という批判は多いですが、でも、世の中にない新しい